

鳥取県における少子化対策等に関するアンケート調査結果（概要）

平成31年4月1日

福祉保健部子育て王国推進局子育て応援課

【アンケート調査の概要】

- 対象：約14,000人（鳥取県県政参画電子アンケート会員に登録している者、鳥取県子育て応援パスポートメールマガジンの受信者及びえんトリー（とっとり出会いサポートセンター）の会員に登録している者）
- 回収数：1,025人（回収率約7.3%）
- 回答者：男性332人（32.4%）、女性693人（67.6%）
- 年齢構成：15～19歳（0.1%）、20～24歳（2.1%）、25～29歳（8.6%）、30～34歳（16.5%）、35～39歳（21.4%）、40～44歳（21.2%）、45～49歳（13.6%）、50～歳（16.6%）
- 調査期間：平成31年1月10日～2月1日
- 調査方法：電子メールで調査の回答依頼を行い、県のホームページ上で調査票へ回答を入力
- その他：前回調査（平成25年度実施）と比較するため、人口構成比によるウエイトバック等の処理は行っていない。

結果まとめ

- 出会い・結婚に繋がる男女の出会いは、職場や友人など身近なことがきっかけとなることが多い一方、「周囲に出会いの機会がない」との回答が7割を超えている。また、行政の実施する結婚支援の利用意向は7割を超えており、身近に出会いの機会のない独身者に対する行政の結婚支援が重要である。（出会・結婚に関しては今回初調査）
- 理想的な子どもの数と現実には持てる子どもの数は、前回（平成25年度）調査と比較して、理想人数も現実的な人数も減少傾向にあり、その大きな理由は、前回調査同様「子育ての経済的負担」「肉体的・精神的な負担」となっているが、今回調査では「仕事と子育ての両立が難しい」という回答が前回と比べて1割以上多くなっている。
- 子育ての経済的負担は、9割以上が負担を感じており、具体的には「幼児期及び大学時期の保育・教育費用」に加えて「塾や習い事の費用」「生活必需品」も負担となっている。しかし、経済的な負担が軽減されれば、さらに子どもを持っても良いという意見が7割以上に達しており、少子化対策には経済的な負担軽減策が重要となっている。
- 地域の子育て支援サービスは、認知度及び利用者の満足度は高いが、利用経験はサービス毎に大きなばらつきがある。特に「地域子育て支援センター」「放課後児童クラブ・放課後子供教室」の利用が多く、未就学時期の子育て支援の場としての役割や働く人にとって大きな支援となっていると考えられる。
- 仕事と子育ての両立では、前回調査と同様に「休暇制度拡充」「労働時間短縮」の労働環境の改善とともに「休業中の経済的支援」を希望する意見が多い。
- 「子育て王国鳥取県」宣言の認知度は9割以上と高いが、毎月19日を「とっとり育児の日」としていることの認知度は26.4%と低い。
- 今後の少子化対策としては、「妊娠・出産後も働き続けられる職場環境整備」「ワークライフバランスのとれた職場環境整備」「若者の就労支援」「保育料の低減」が求められている。

1 出会い・結婚

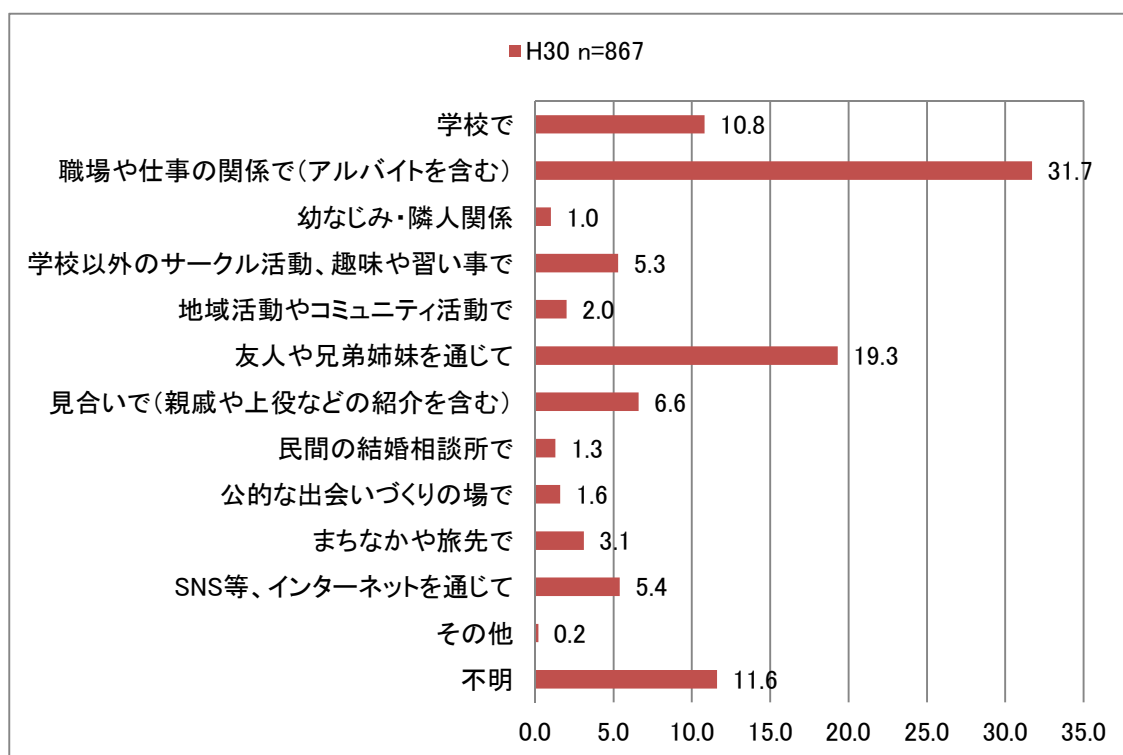
○交際や結婚に至る男女の出会いには「職場や仕事関係」が最も多く31.7%であり、次いで「友人や家族を通じて」が19.3%となった。

○異性と交際していない独身者において、周囲で交際や結婚に至る男女の出会いが「ない（「どちらかと言えない」を含む）」という回答は73.8%となった。

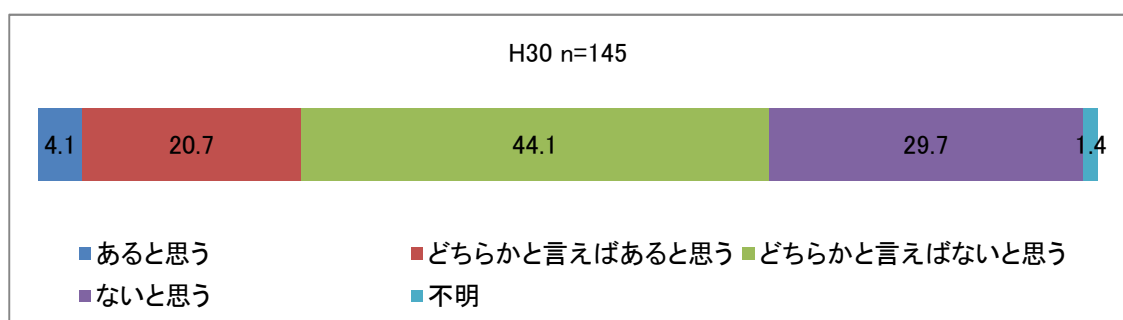
○見合いや民間及び行政が実施する結婚支援サービスの利用の意向はいずれも6割以上と高く、特に行政の実施する結婚支援の利用意向が最も高く74.1%となった。

○今後結婚生活を送るための現在の所得については、男女とも約35%が「十分である・支障はない」と回答している一方、男性においては57.5%が「不足している」となり女性の43.1%と比較すると不足感が大きい傾向がある。

(1) 交際・結婚に関する男女の出会いのきっかけ【問9】 ～職場での出会いと友人や家族を通じた出会い～

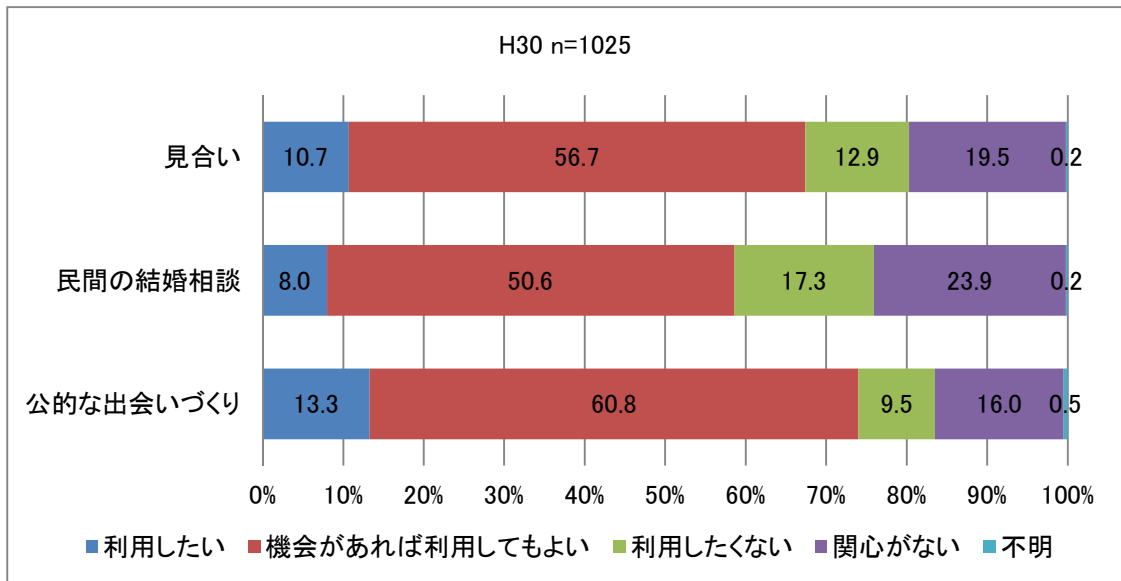


(2) 周囲で交際・結婚に繋がる異性との出会いがあるか【問10】 ～7割以上が少ないと回答～



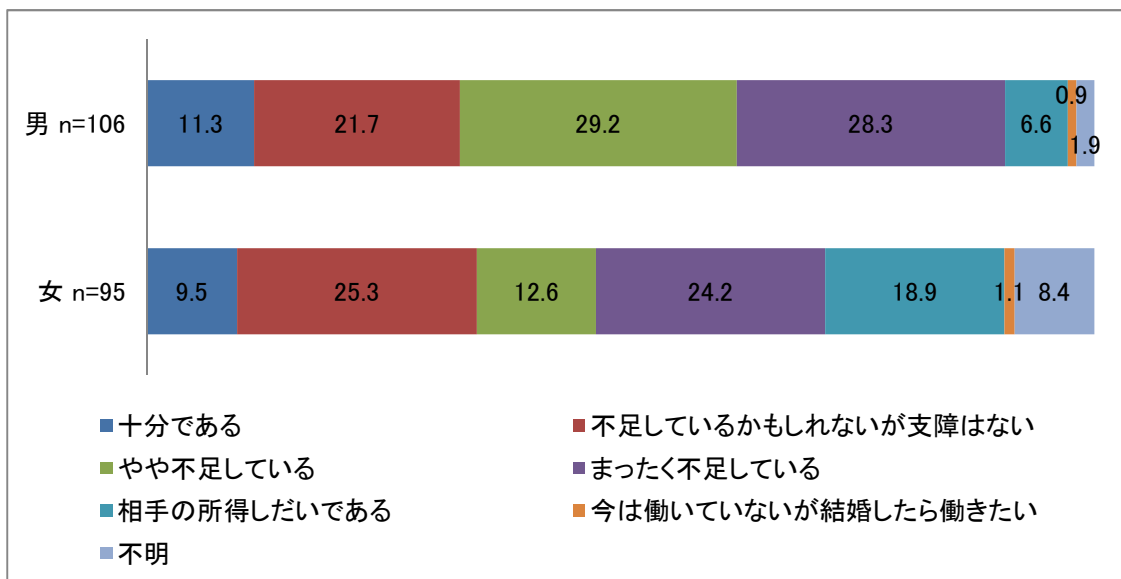
(3) 結婚支援サービス等の利用希望【問 12】

～各項目ともに6割以上が利用の意向～



(4) 結婚生活を送るための現在の所得（独身者）【問 13】

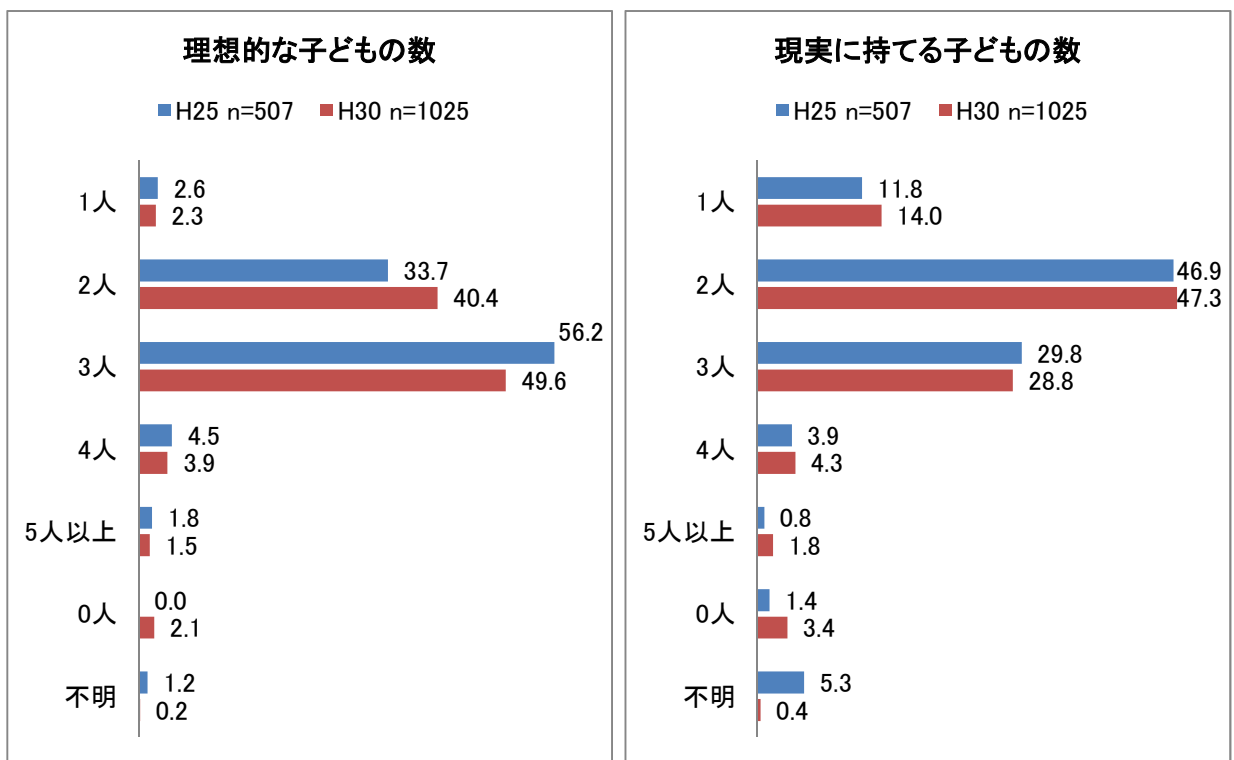
～十分若しくは支障は無いと考える割合は男女ほぼ変わらない一方、男性の不足感が大きい～



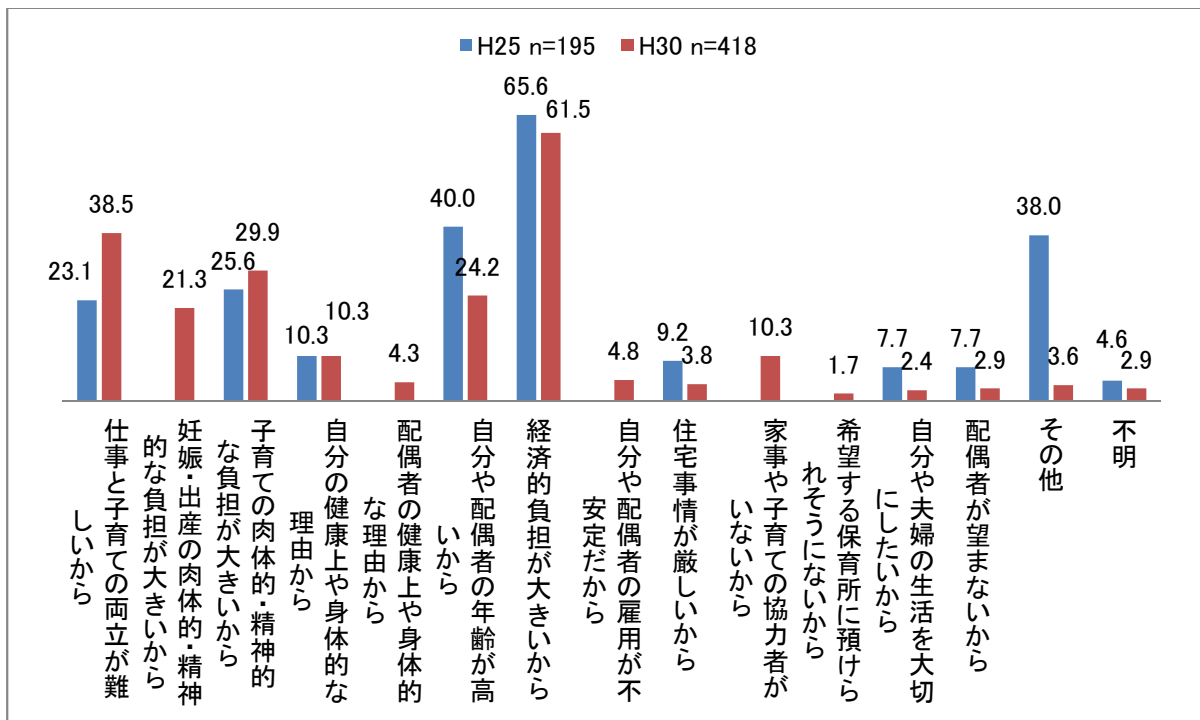
2 理想的な子どもの数

- 理想的な子どもの数は「3人」が最も多く49.6%。3人以上では55.0%（25年度62.5%）と対前回は7.5ポイント減少、2人以下は42.7%（21年度36.3%）と対前回は6.4ポイント増加し、理想人数は減少傾向にある。
- 現実に持てる子どもの数は「2人」が最も多く47.3%。3人以上では34.9%（25年度34.5%）と対前回は0.4ポイント増加に対して、2人以下は61.3%（25年度58.7%）と対前回は2.6ポイント増加となった。また、0人が3.4%（25年度1.4%）と前回は2.0ポイント増加となり現実に持てる人数も減少傾向にある。
- 将来的に持つ子どもの数が理想より減少する理由は、前回調査及び今回調査ともに「子育てに費用がかかるという経済的負担」と「妊娠～育児に係る肉体的・精神的な負担が大きいこと」が大きな要因となっている。また、「仕事と子育ての両立が難しい」が前回調査と比べて1割以上高くなった。

(1) 理想的な子どもの数【問15】と現実に持てる子どもの数【問19】 ～理想的な子どもの数は「3人」、現実では「2人」～



(2) 将来的に持つ予定の子どもの数が理想的な子どもの数より少ない理由【問 20】
 ～経済的負担、仕事と家庭の両立、妊娠・出産・育児の肉体的・精神的な負担に不安～



※一部の設問は平成25年度に未調査

3 子育ての経済的負担感

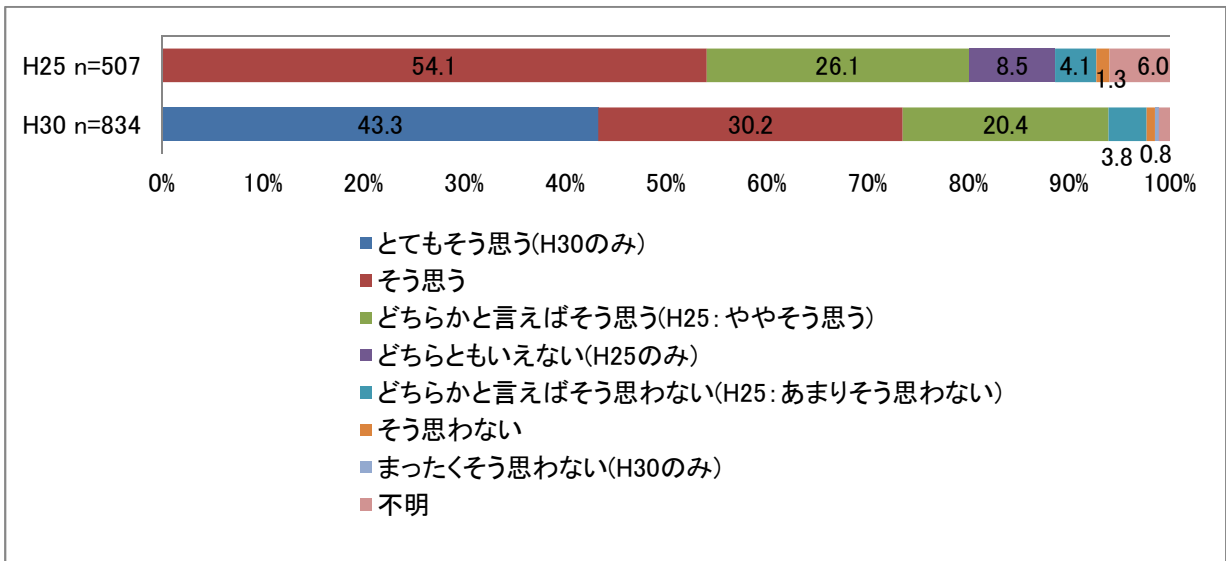
○子育ての経済的負担は、9割以上が「負担が多い」と感じており、うち43.3%が「とてもそう思う」と回答している。

○負担理由は、「大学の時期の費用負担」「生活必需品」「就学前の保育料」「塾や習い事」が大きくなっている。

○経済的負担が少なければ「(もっと)子どもを持てる」が75.8%に達している。

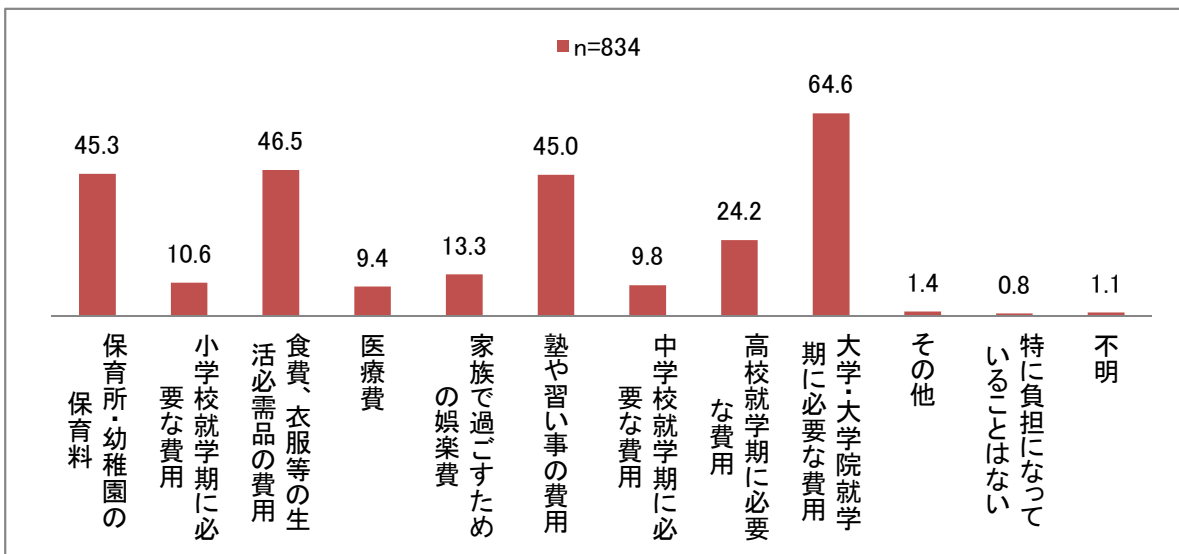
(1) 子育ての経済的負担が大きいですか。【問 36】

～「経済的負担が多い」が9割以上～

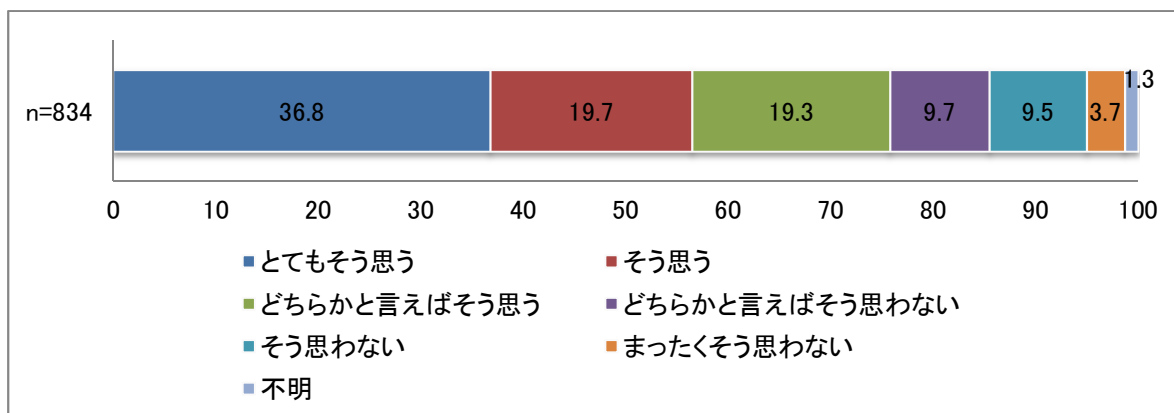


(2) 子育てで家計の負担となっている (なると予想される) 項目【問 37】

～習い事や高等教育、保育料、生活必需品に負担感～



(3) 子育ての経済的負担が小さければ（もっと）子どもを持てるか【問 38】
～さらに子どもを持てると思うが7割以上～

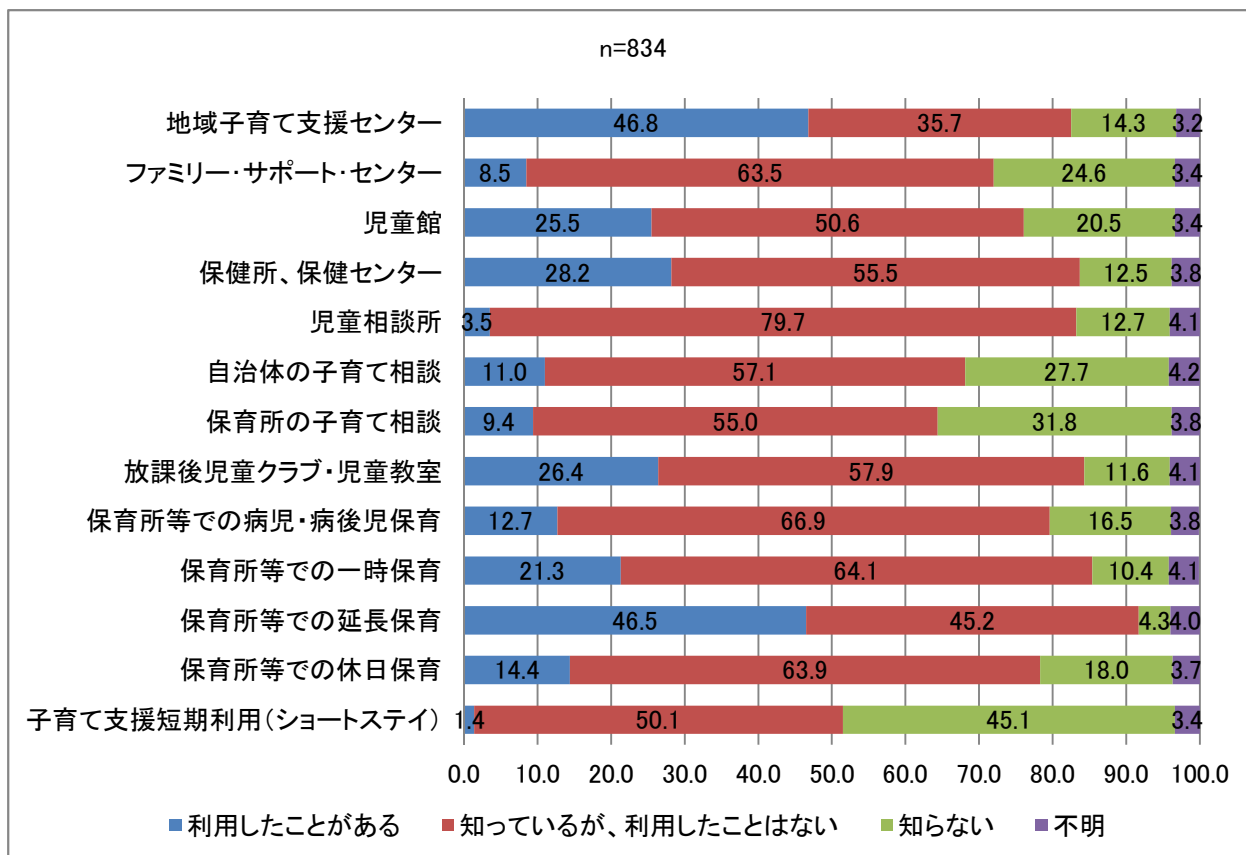


4 地域の子育て支援サービス

- 子育て支援サービスの利用は、約5割が利用している「地域子育て支援センター」「保育所等での延長保育」がある一方、1割に満たないサービスもある。
- サービスを知っているが利用したことがない理由は、「利用する必要がない(57.7%)」が最も多いものの、「利用方法がわからない(26.1%)」「利便性が悪い(15.7%)」という理由もある。
- 利用者における満足度は、「満足」がいずれのサービスも5割以上となっているものの、「不満」が2割を超えるサービスもある。
- サービスの満足していない理由は「必要な時に利用できない」「利用したい時間に利用できない」「スタッフの対応に不満」という項目がそれぞれ2割を超えている。
- 子育て支援サービスの環境は「整っている」が67.4%、小児医療の環境は「整っている」が75.9%と高くなっている。
- 子育ての悩みを相談する先は「配偶者」が65.3%と最も高く、次いで「親」が55.4%、「友人」が50.1%となっている。

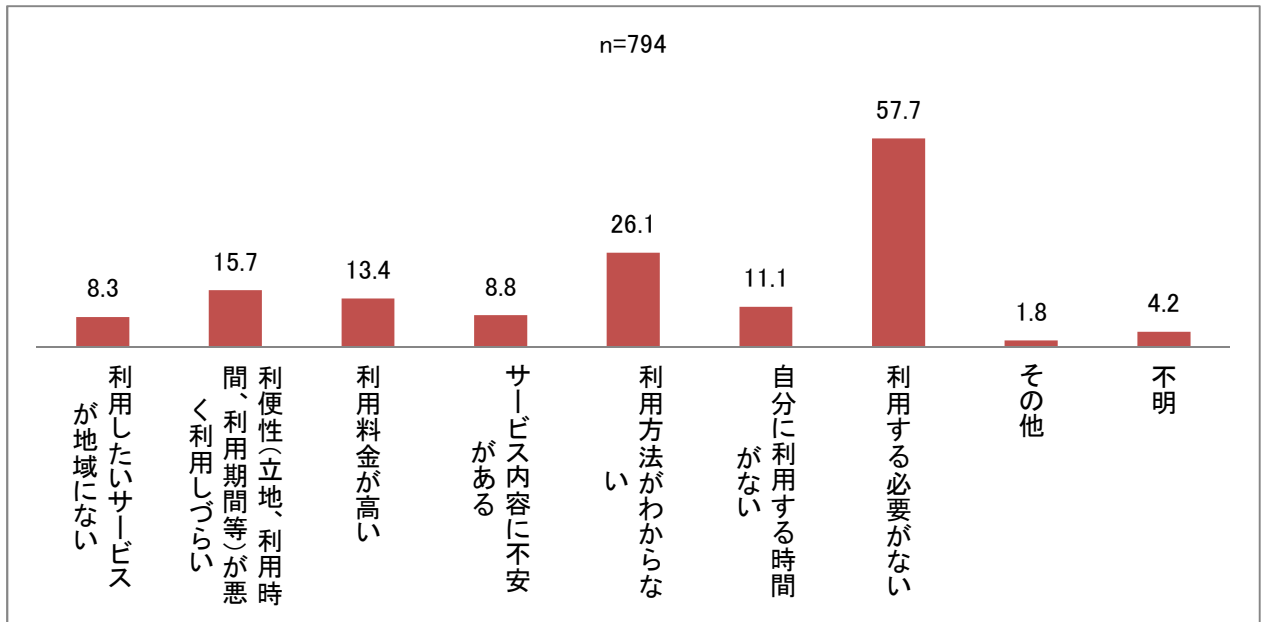
(1) 地域子育て支援サービスを利用していますか。【問 41(1)】

～各サービスとも認知度は高いが、利用経験については大きくばらつきがある～



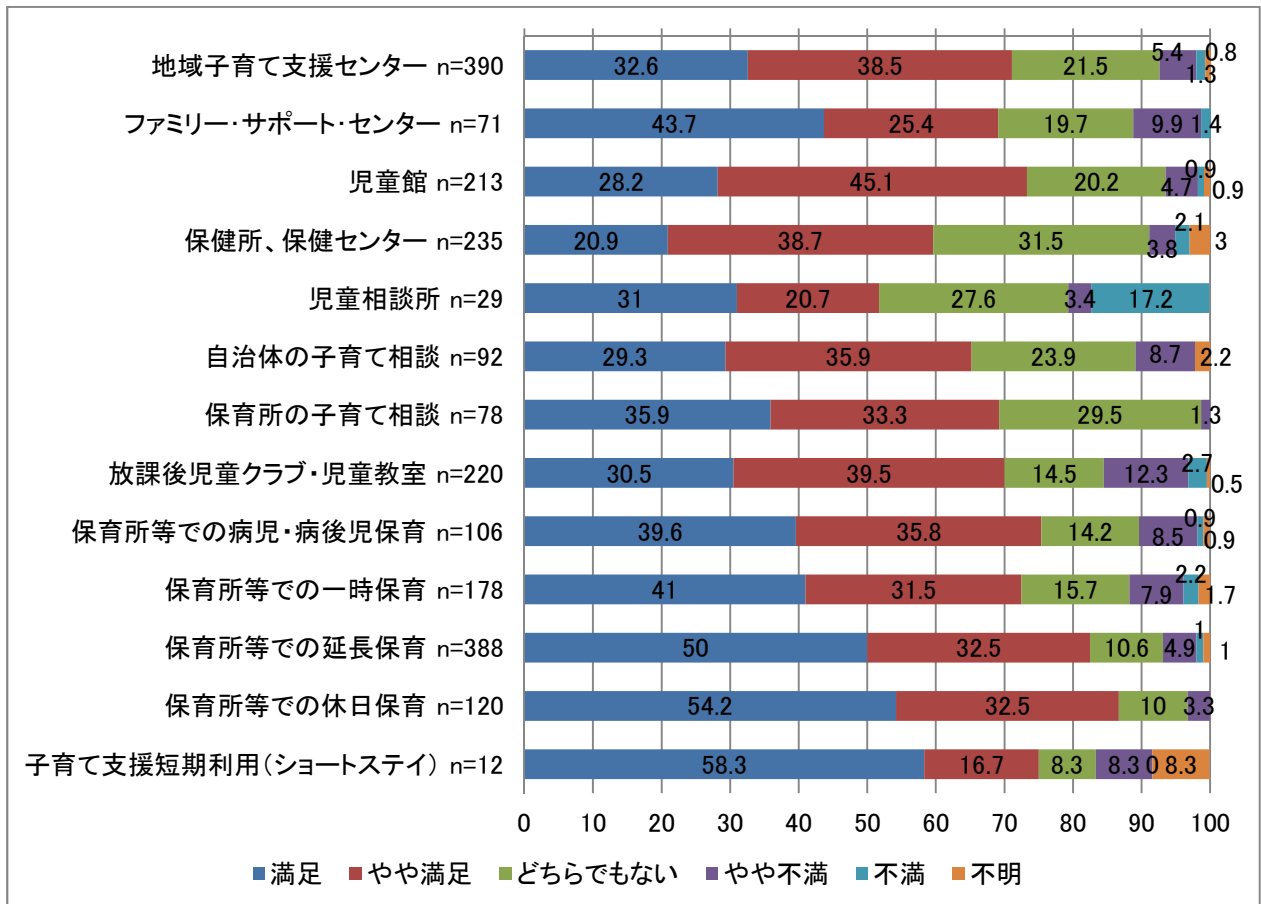
(2) 地域子育て支援サービスを知っているが利用したことがない理由【問 42】

～利用方法が分からない、利便性の悪さ～



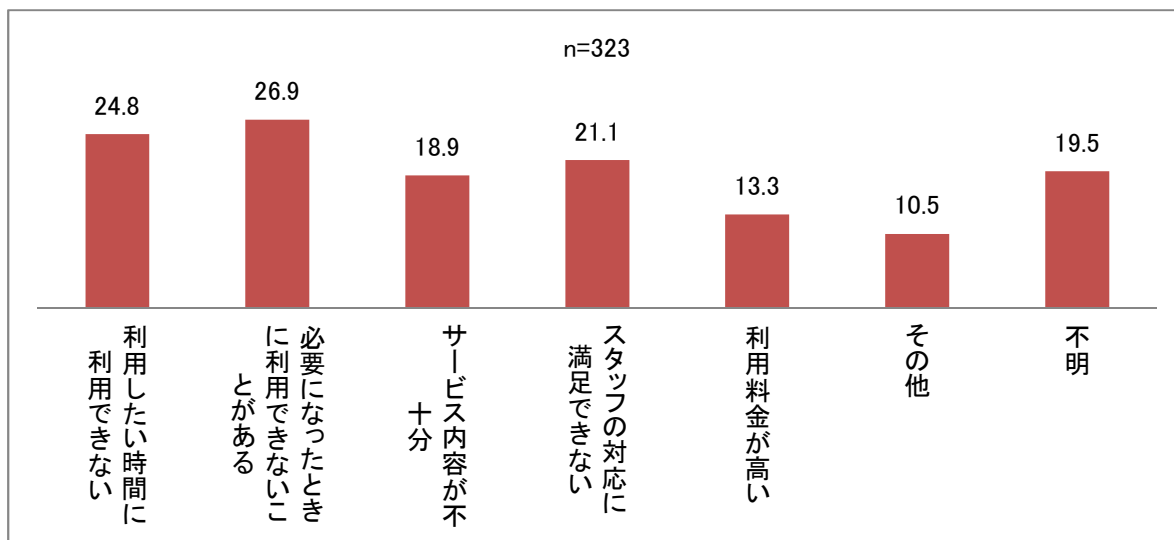
(3) 地域子育て支援サービスに満足していますか。【問 41(2)】

～利用者はいずれのサービスについても5割以上が満足～



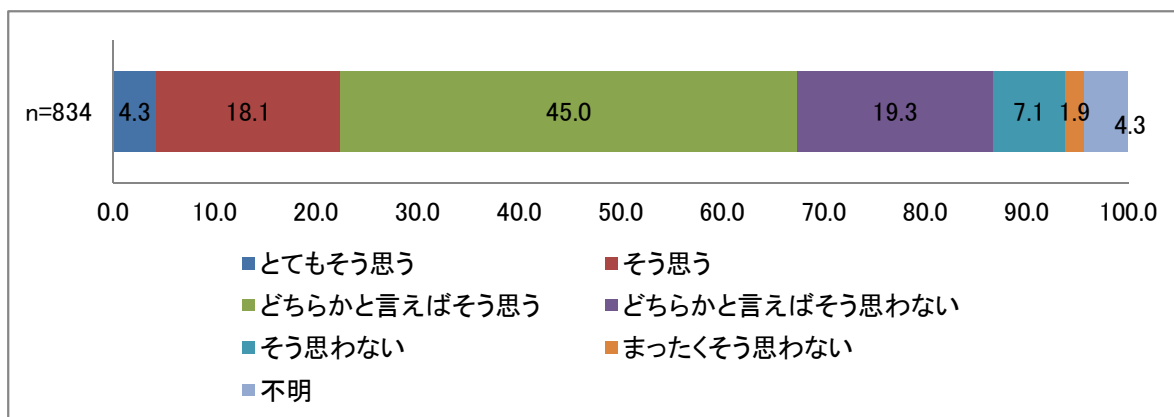
(4) 地域子育て支援サービスに満足していない理由【問 43】

～利用時間等で利用者の希望に沿えていない～



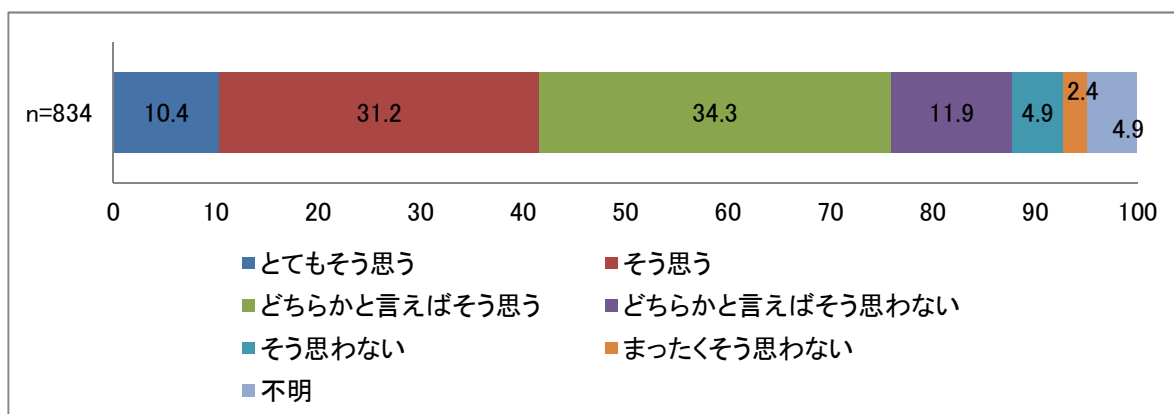
(5) 一般的にみて、子育て支援サービス（地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、放課後児童クラブ等）を利用できる環境が整っていますか。【問 44】

～行政等が提供する子育て支援サービス環境への満足度は高い～



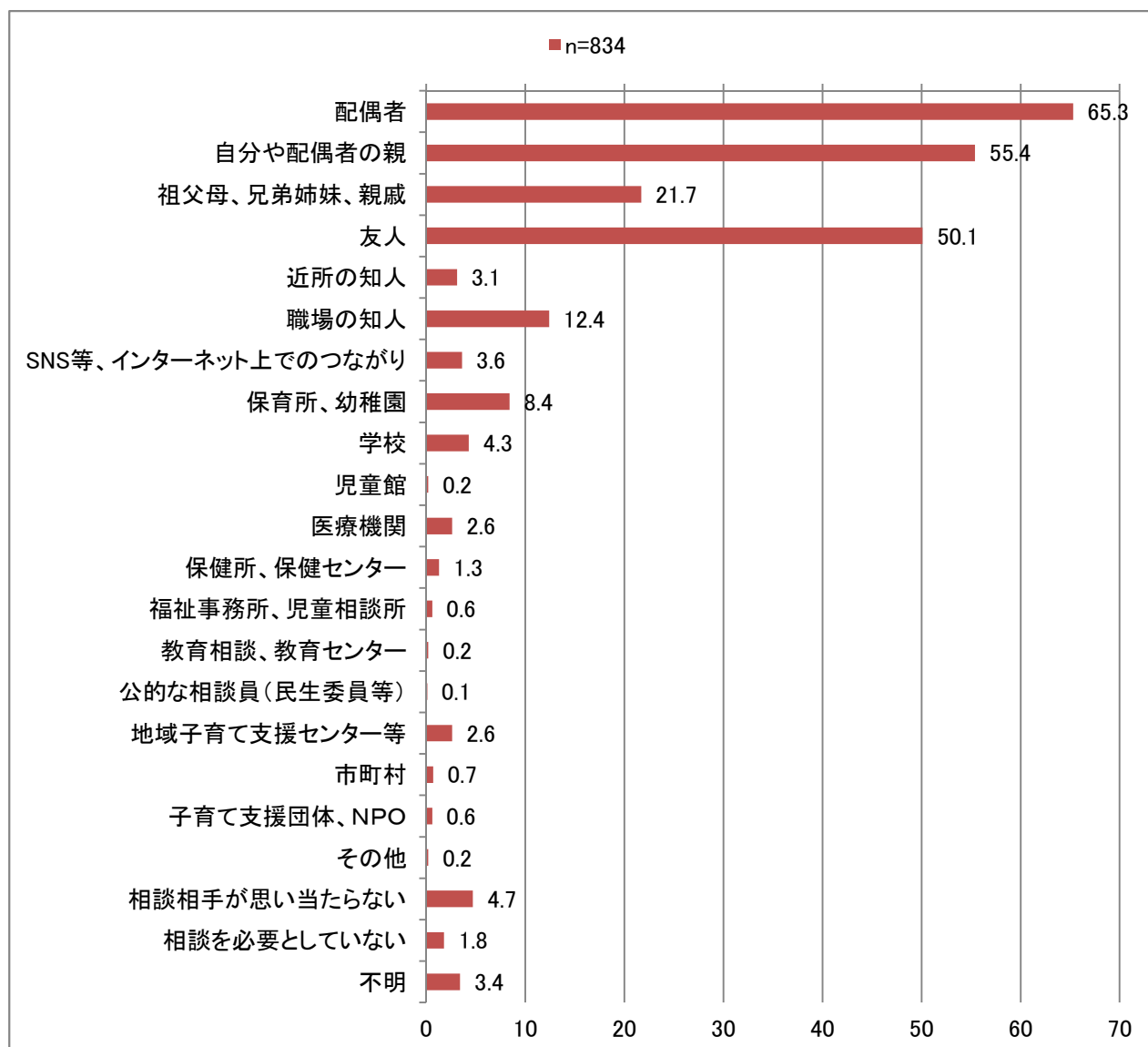
(6) 安心して小児医療を受けられる環境が整っていますか。【問45】

～小児医療体制への満足度は高い～



(7) 子育ての不安や悩みを相談できる先は誰（どこ）ですか。【問 40】

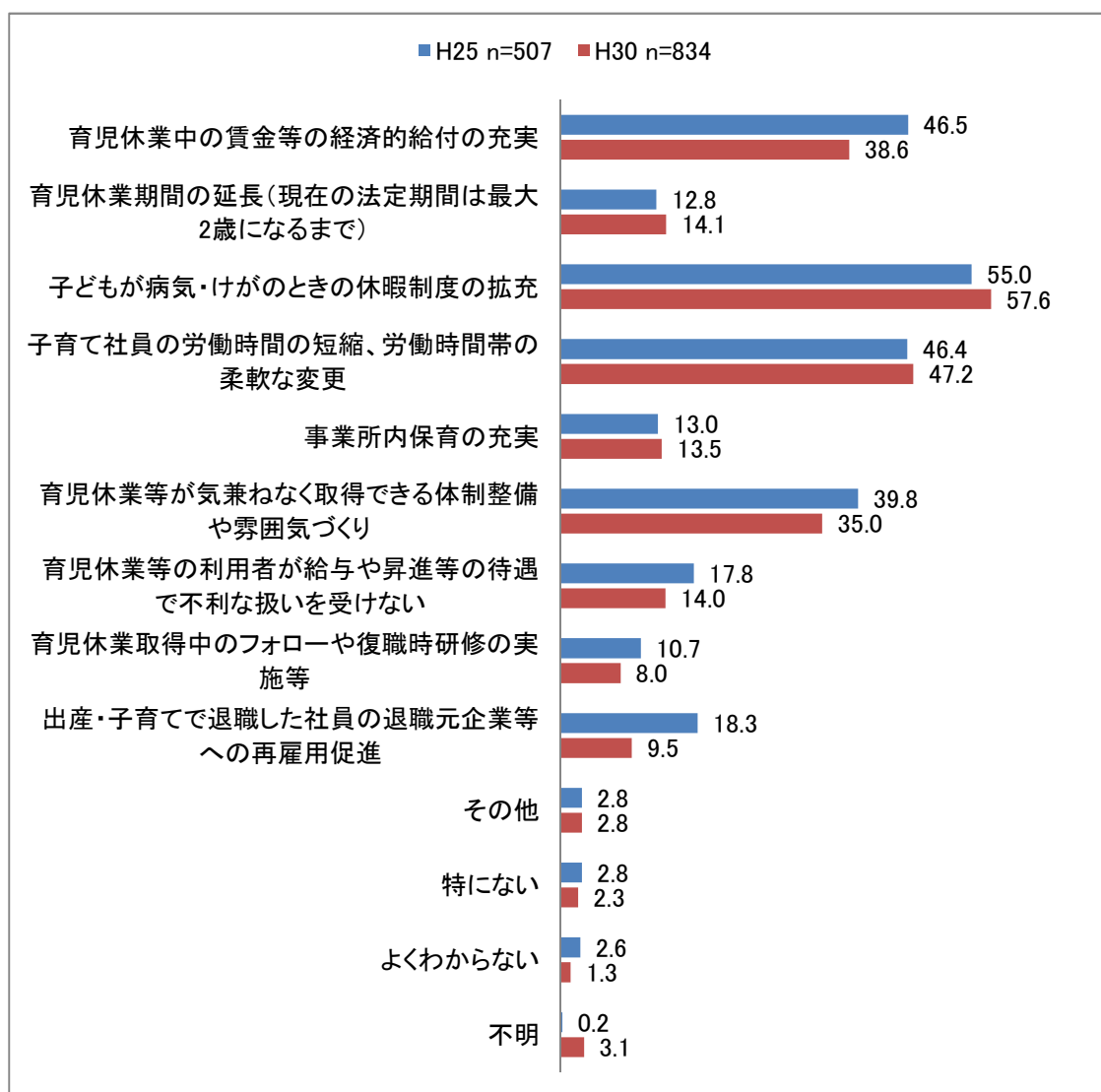
～家族や友人・知人が圧倒的に多い～



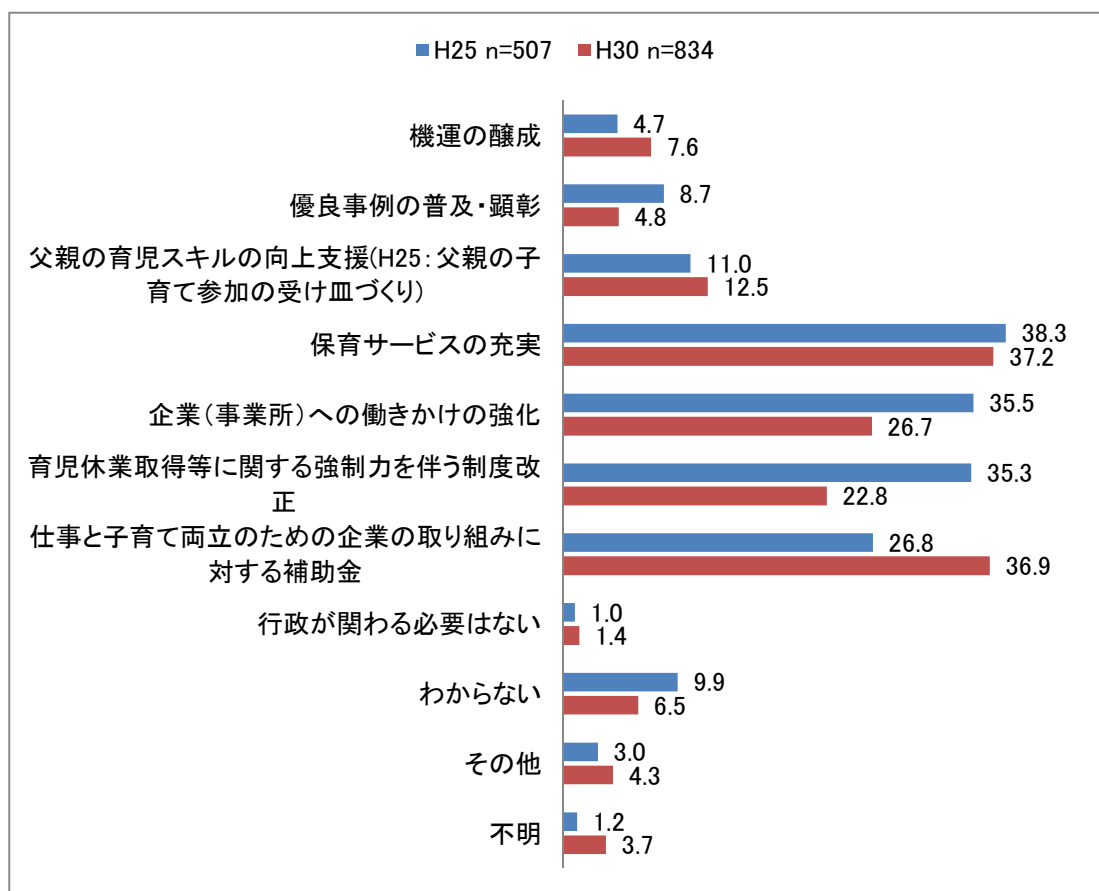
5 仕事と子育ての両立

- 職場の取組みとして、前回調査同様「休暇制度の拡充」「勤務時間の短縮」等の労働環境の改善を希望している。
- 「育児休業中の賃金などの経済的給付支援」は38.6%（25年度46.5%）と対前回比7.9ポイント減少している。
- 行政に期待する施策は、「企業に対する助成」「企業への働きかけ」等の企業の職場改善啓発及び「保育サービスの充実」等の仕事と子育ての両立ができる体制の整備が上位を占めており、概ね前回調査と同様の結果となっている。
- 結婚・出産後の退職経験について、「結婚を機に辞めた」が22.7%、「出産を機に辞めた」が25.6%となっており、結婚若しくは出産を機に辞めた経験が48.3%（25年度44.5%）と対前回比3.8ポイント高くなっている。
- 退職理由は、「自発的に辞めた」が33.8%で最多となっている。

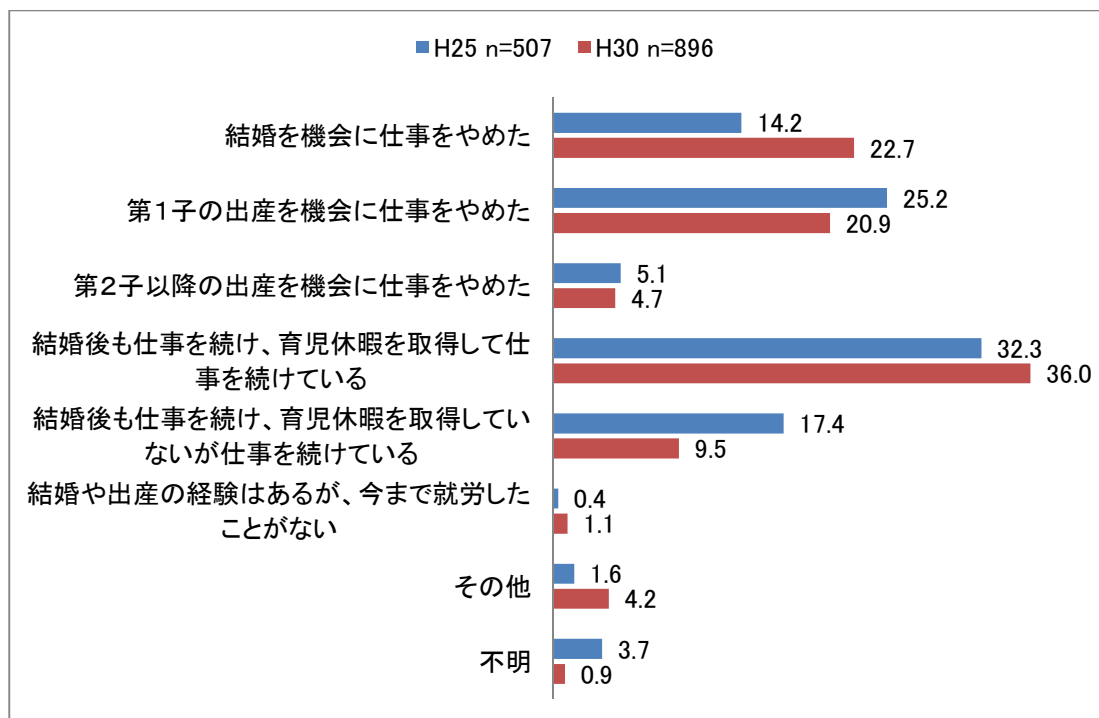
（1）仕事と子育てを両立するために必要な職場における取組み【問46】 ～休暇・労働時間短縮等の制度の拡充と育児休業中の賃金等の充実～



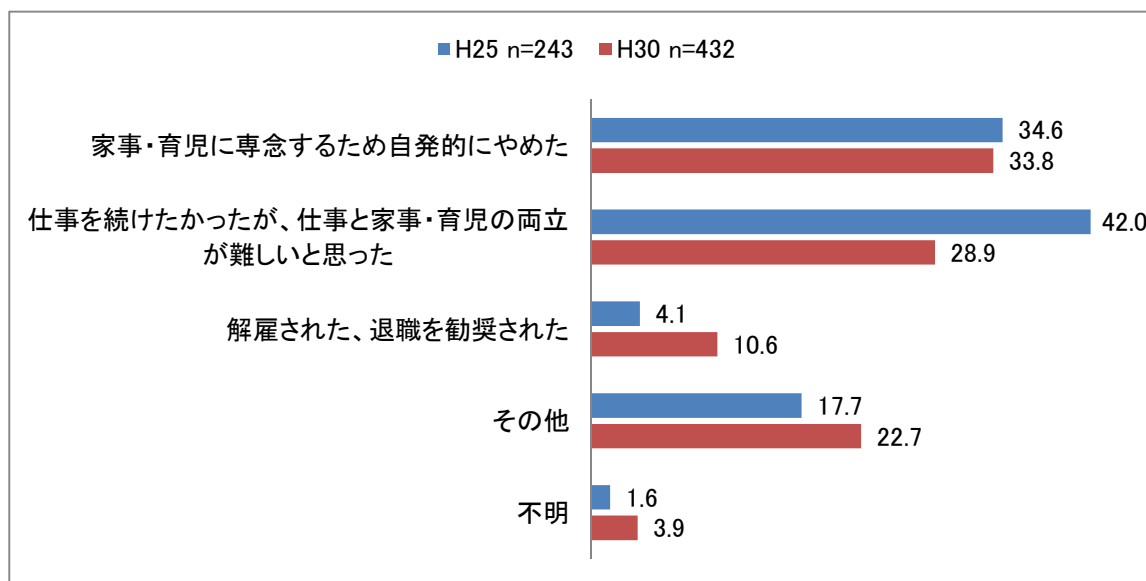
(2) 仕事と子育てを両立するために行政に期待する施策【問47】
 ～保育サービスの充実、企業に対する助成～



(3) 結婚や出産を機に仕事を辞めた(退職した)経験があるか。【問24】
 ～継続就労が4割以上、結婚を理由とした離職が最多～



(4) 仕事を辞めた理由はどのようなことですか。【問 25-1】
～家事・育児専念、仕事と育児の両立困難が各約3割～

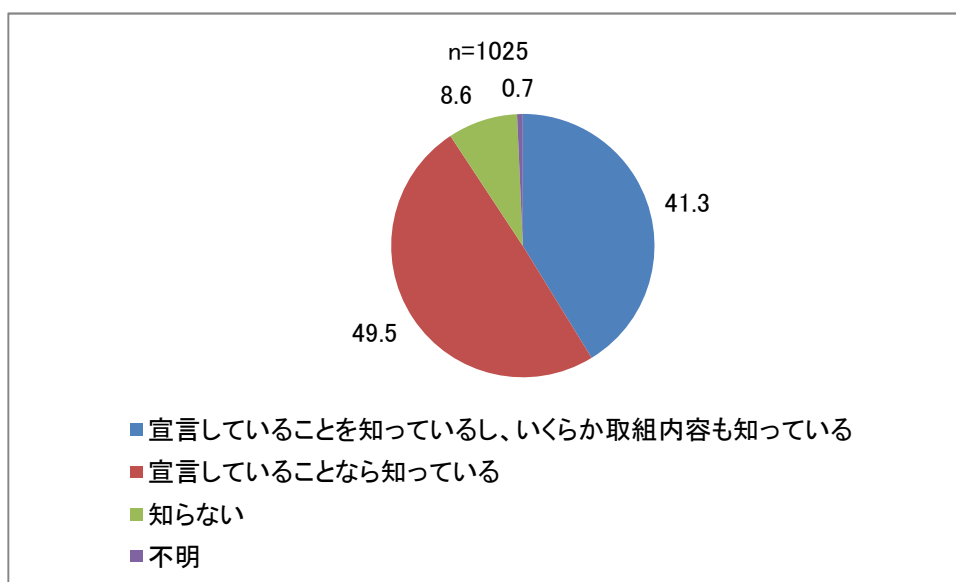


6 「子育て王国鳥取県」の認知度及び今後の支援策

- 「子育て王国鳥取県」の宣言の認知度は9割以上（90.8%）ある。
- 「とっとり育児の日」の制定の認知度は26.4%（25年度16.0%）と対前回比10.4ポイント増加したが、「知らない」が72.6%と依然高くなっている。
- 今後の少子化対策としては、「妊娠・出産後も働き続けられる職場環境整備」「ワークライフバランスのとれた職場環境整備」「若者の就労支援」「保育料の低減」を求める声が多くなっている。

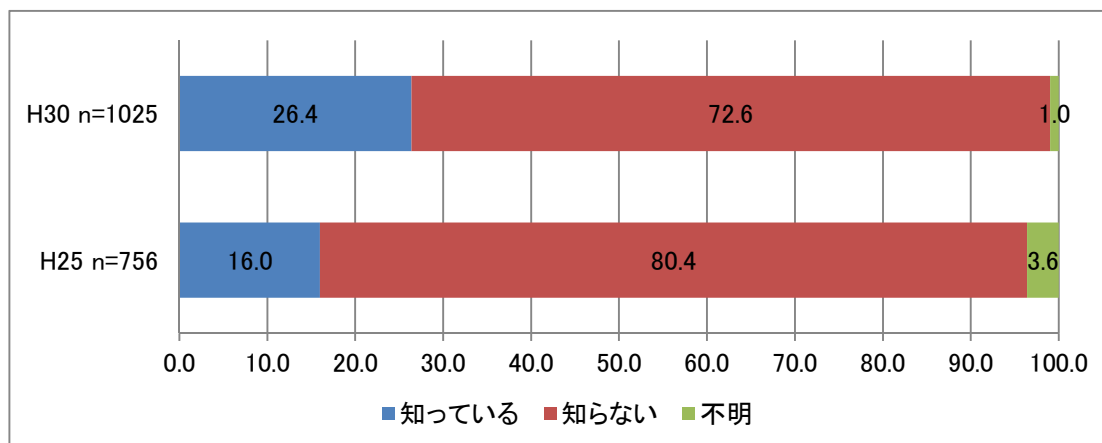
(1) 「子育て王国鳥取県」を宣言していることを知っていますか。【問 32】

～「知っている」が9割～



(2) 「とっとり育児の日」の制定を知っていますか。【問 33】

～「知らない」が7割～



(3) 少子化対策として、今後充実して欲しい子育て支援策【問 48】

～職場環境整備、若者就労支援、保育料の低減～

